

令和 5 年度

地球温暖化・資源循環対策等に資する調査委託費
(気候変動緩和の科学的根拠に関する国際動向調査)

調査報告書

令和 6 年 3 月

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

はじめに

本報告書は令和 5 年度に経済産業省の委託事業として実施した「地球温暖化・資源循環対策等に資する調査委託費（気候変動緩和の科学的根拠に関する国際動向調査）」の調査結果をまとめたものである。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、温暖化に関する科学的知見を収集・評価し、温暖化予測（第一作業部会）、温暖化影響と適応（第二作業部会）、温暖化緩和（第三作業部会）からなる報告書、さらに温室効果ガスの排出量及び吸収量の算出・報告手法に関わるガイドラインを作成する。これまでに 6 回にわたる評価報告書、多数の特別報告書等の作成がなされ、気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）における温暖化抑制の目標数値に係る取り組み指針の科学的根拠となるなど、気候変動の国際交渉の方向性に多大な影響を与えてきた。

IPCC では、令和 4 年 4 月に第 6 次評価報告書 第三作業部会報告書（AR6 WG3）、令和 5 年 3 月に第 6 次評価報告書 統合報告書（AR6 SYR）が公表されて第 6 次評価サイクルが完了した。令和 5 年度は、7 月の IPCC 第 59 回総会で第 7 次評価サイクル（AR7）のビューロー選挙が行われて新体制が立ち上がり、さらに令和 6 年 1 月の IPCC 第 60 回総会では、AR7 で作成する成果物及びスケジュール等について議論が行われ、令和 8 年までに気候変動と都市に関する特別報告書、短寿命気候強制力因子（SLCF）に関する方法論報告書を作成すること、二酸化炭素除去（CDR）技術・炭素回収利用及び貯留（CCUS）に関する専門家会合を開催し方法論報告書を作成することを決定して、AR7 の活動が本格的に開始した。

経済産業省は、特に温暖化交渉と関連が強い温暖化緩和（第三作業部会（WG3））を担当し、政府意見の取りまとめと発信、及び、我が国の執筆者間の情報交換や連携を促進する役割を持つ。こうした観点から、令和 5 年度の本調査事業では、IPCC 総会に関連する情報収集・分析を行い、国内連絡会や WG3 幹事会等の開催を通じて執筆者間の情報交換や連携の促進、報告書ドラフト政府レビュー等のための情報収集・分析・報告・助言、及び、IPCC 報告書に関するアウトリーチ活動等を行った。

本報告書で取りまとめた内容が、今後の地球温暖化対策の一助となれば幸いである。

目 次

1	IPCC 関連会合への出席と専門家派遣を通じた情報収集、分析	P. 1
1.1	IPCC 総会への出席	
1.1.1	IPCC 第 59 回総会	
1.1.2	IPCC 第 60 回総会	
2	IPCC 第三作業部会に関する幹事会の主催	P. 5
2.1	令和 5 年度 IPCC 第三作業部会 幹事会	
3	IPCC 国内連絡会の開催補助	P. 6
3.1	第 6 回 IPCC 国内連絡会	
4	アウトリーチ活動の準備	P. 8
4.1	IPCC シンポジウム	
4.1.1	開催状況	
4.1.2	シンポジウムの概要	
4.1.3	講演発表・パネルディスカッションの概要	
4.2	WG1・WG3 および都市特別報告書に関係のあるビューローと 日本人研究者の非公式意見交換会	
4.2.1	開催状況	
4.2.2	意見交換会の概要	
5	AR7 に向けた検討および執筆者選定に向けた手続きの補助	P. 16
5.1	AR6 WG3 の日本人執筆者および有識者へのヒアリング	
6	総会・関連会合に関する調査と報告	P. 17
6.1	IPCC ビューロー選挙に関する調査	
6.1.1	第 7 次評価サイクルの成果物およびタイムラインに関する調査	
6.1.2	IPCC ビューロー及び TFI ビューロー選挙時の流れ及び、構成、 地域バランスに関する調査	
6.1.3	IPCC ビューロー及び TFI ビューロー選挙立候補者に関する調査	
7	AR6 WG3 報告書の翻訳	P. 18

第1章 IPCC 関連会合への出席と専門家派遣を通じた情報収集、分析

今年度は2件のIPCC総会（第59回総会及び第60回総会）への出席を通じた情報収集、分析について記す。今年度は関連会合への専門家の派遣は実施されなかった。

1.1 IPCC 総会への出席

今年度が開催されたIPCC総会は以下の2件である。

- ・2023年7月25日～7月28日 IPCC第59回総会 ナイロビ（ケニア）
- ・2024年1月16日～1月20日 IPCC第60回総会 イスタンブール（トルコ）

これらの会合に出席し、調査・出席・文書の作成・報告、政府出席者に対する助言を行った。以下にIPCC総会の詳細について記す。

1.1.1 IPCC 第59回総会 ナイロビ（ケニア）

IPCC第59回総会は7月25日から28日にかけて、ケニア共和国・首都ナイロビにおいて開催された。各国政府の代表を始め、世界気象機関（WMO）や国連環境計画（UNEP）、気候変動枠組条約（UNFCCC）などの国際機関等から関係者が出席して開催され、日本からは環境省、経済産業省から3名が出席した。今次総会は、第7次評価報告書（AR7）の作成プロセスにおいてIPCCを率いるビューロー（議長団）メンバーとインベントリータスクフォースビューロー（TFB）メンバーの選出が行われた。

選挙の結果、IPCCを率いるビューローメンバー計34名が選出され、IPCC議長には、Jim Skea（英国）、副議長には、Diana Urge-Vorsatz（ハンガリー）、Ladislaus Chang'a（タンザニア連合共和国）、Ramón Pichs-Madruga（キューバ共和国）が選出された。

また日本からは榎剛史（公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）フェロー/TSU 科学アドバイザー）がIPCC インベントリータスクフォース（TFI）の共同議長として選出された。

投票の結果は以下の通り。

・AR7IPCC ビューロー一覧

1	IPCC 議長	Jim Skea	英国
2	IPCC 副議長	Ladislav Chang'a	タンザニア
3		Ramón Pichs-Madruga	キューバ
4		Diana Urge-Vorsatz	ハンガリー
5	WG1 共同議長	張 小曳 (Zhang Xiaoye)	中国
6		Robert Vautard	フランス
7	WG2 共同議長	Winston Chow	シンガポール
8		Bart van den Hurk	オランダ
9	WG3 共同議長	Katherine Calvin	米国
10		Joy Jacqueline Pereira	マレーシア
11	TFI 共同議長	榎 剛史	日本
12		Mazhar Hayat	パキスタン
13	WG1 副議長	Nana Ama Browne Klutse	ガーナ
14		Aida Diongue-Niang	セネガル
15		Maheswar Rupakheti	ネパール
16		Inés Camilloni	アルゼンチン
17		Sherilee Harper	カナダ
18		Edvin Aldrian	インドネシア
19		Sonia Seneviratne	スイス
20	WG2 副議長	Fatima Denton	ガンビア
21		Cromwel Lukorito	ケニア
22		Raman Sukumar	インド
23		Laura Gallardo	チリ
24		Carlos Mendez	ベネズエラ
25		Adelle Thomas	バハマ
26		Mark Howden	オーストラリア
27		Zinta Zommers	ラトビア
28	WG3 副議長	Noureddine Yassaa	アルジェリア
29		Malak Alnory	サウジアラビア
30		Eduardo Calvo Buendía	ペルー
31		Siir Kilkis	トルコ
32		Gervais Itsoua Madzous	コンゴ
33		Jan sigurd Fuglestad	ノルウェー
34		Oliver Geden	ドイツ

・ AR7 TFI ビューロー一覧

1	インベントリ ータスクフォ ースビューロ ー (TFB)	Hamid Abakar Souleymane	チャド
2		Samir Tantawi	エジプト
3		Amjad Abdulla	モルディブ
4		Mohammad Rahimi	イラン
5		Laura Elena Dawidowski	アルゼンチン
6		Yasna Rojas	チリ
7		Irma Fabiola Ramirez- Hernandez	メキシコ
8		Melissa Weitz	米国
9		Joni Jupesta	インドネシア
10		Mohd Talib Latif	マレーシア
11		Giacomo Grassi	イタリア
12		María José Sanz-Sánchez	スペイン

1.1.2 IPCC 第 60 回総会 イスタンブール（トルコ）

IPCC 第 60 回総会は 1 月 16 日から 20 日にかけて、トルコ共和国・イスタンブールにおいて開催された。各国政府の代表を始め、世界気象機関（WMO）や国連環境計画（UNEP）などの国際機関等から関係者が出席して開催され、日本からは経済産業省、環境省、文部科学省、気象庁から 5 名が出席した。今次総会では、第 7 次評価報告書（AR7）サイクルで作成する成果物及びスケジュール等について議論が行われ、以下の内容について決定された。

- ・ 特別報告書：気候変動と都市に関する特別報告書を 2027 年初頭に提出する。
- ・ 方法論報告書①：短寿命気候強制力因子（SLCF）に関する方法論報告書を 2027 年までに提出する。
- ・ 方法論報告書②：二酸化炭素除去（CDR）技術、炭素回収利用及び貯留（CCUS）に関する専門家会合を開催し、2027 年末までにこれらに関する方法論報告書を提出する。
- ・ 統合報告書：全ての作業部会（WG）報告書※の完成後、2029 年後半までに提出される。

※WG 報告書

WG I - 自然科学的根拠

WG II - 影響、適応、脆弱性

WG III - 気候変動の緩和

- ・ 影響と適応に関するテクニカルガイドライン：影響と適応に関する 1994 年 IPCC テクニカルガイドラインの改訂と更新を行う（指標、測定基準、方法論を含む）。

WG2 報告書と合わせて検討するが、別個の成果物として発行される。

※その他：WG 報告書等 AR7 成果物の提出年月等は次回の総会において検討の上、決定。

第2章 IPCC 第三作業部会に関する幹事会の主催

本章では国内で組織する IPCC 第三作業部会に関する幹事会について記述する。

幹事会では、IPCC 第三作業部会の委員及び関係省庁担当者らが出席し、IPCC 報告書に関する情報の共有化・意見交換等を行った。

開催時期は地球環境対策室と相談して、9月に1回実施した。今年度も昨年から引き続き新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、対面とオンラインでのハイブリッド開催となった。開催に当たっては、日程調整、議事概要の作成（会議終了後に第一次案を地球環境対策室に提供し、その後、委員に内容を確認してセット版を完成）等を行った。また、出席した委員には謝金を支払った。

2.1 IPCC 第三作業部会第5回幹事会

IPCC 第三作業部会第5回幹事会を、9月8日に対面とオンラインで、下記のとおり開催した。

日 時：2023年9月8日（金）13:30～15:30

開催方法：AP 虎ノ門 3 階 I+J ルームでの対面と Microsoft Teams によるオンラインのハイブリッド会議

出席者：IPCC 第三作業部会委員、経済産業省、関係省庁担当者、事務局（RITE）

議題

- (1) 気候変動に関する最新の動向【経済産業省】
- (2) IPCC59 総会（ビューロー選挙）の報告及び今後のスケジュール【経済産業省】
- (3) AR7 に向けて
- (4) その他
 - ・委員の方々からのトピックスなど
 - IPCC シナリオワークショップの報告【シナリオワークショップ参加者】
 - ・自由討論

第3章 IPCC 国内連絡会の開催補助

本章では IPCC 関連の国内の委員会である IPCC 国内連絡会について記述する。

IPCC 国内連絡会の開催に当たって、IPCC 第三作業部会の執筆者及び関係省庁担当者や他 WG 支援事務局と日程・議題の調整を行い、国内連絡会の開催補助を行った。出席した IPCC 第三作業部会の委員には謝金を支払った。

3.1 第6回 IPCC 国内連絡会

第6回国内連絡会が1月12日に開催された。開催に当たっては、今回は経済産業省が主催となるため、WG3 事務局である RITE が代表事務局を担当し、日程調整のとりまとめ、配布資料の準備、議事概要の作成、当日運営等を行った。今年度は COVID-19 感染拡大防止の観点から、ハイブリッド開催となり、RITE は WG3 事務局として、その代表事務局を担当し、国内連絡会に参加した。

以下に議事概要を示す。

日時：令和6年1月12日（金） 10:00～12:00

場所：TKP 新橋カンファレンスセンター ホール 15D

及び Microsoft Teams によるオンライン会議

出席者：IPCC 国内連絡会委員、関係省庁担当者、事務局

<議事次第>

1. 気候変動に関する動向 【経産省・環境省】

COP28 について

IPCC について

2. TFL および SLCF 方法論報告書について 【榎 TFI 共同議長】

3. WG1 からの報告 【文科省・気象庁】

(1) COP 期間の収集結果概要 気象庁による気象観測に関する議論の紹介

(2) WG1 独自で実施している活動

4. WG2 からの報告 【環境省】

(1) WG2 独自で実施している活動、関連行事

(2) 研究成果

5. WG3 からの報告 【経産省】

(1) WG3 独自で実施している活動

(2) IPCC シンポジウム開催のご案内

6. 自由討論

□第60回総会に向けての意見聴取

□政策決定者にとってより **relevant** なものになるためには、**AR7** でどのような要素を取り入れるべきか

□**AR7** サイクルが第 2 回グローバルストックテイクに最大限のインプットをするにはどのような期間で報告書を執筆すべきか

7. 結び・事務連絡

第4章 アウトリーチ活動の準備

IPCC の第7次評価報告書（AR7）や特別報告書等の最近の活動について、一般の理解を深めるために、気候変動の緩和に関する最新の知見及び今後の方向性等に関して報告し議論を行シンポジウム及び意見交換会を企画し、地球環境対策室と適宜調整の上、開催した。

あわせて、IPCC に関するホームページ（常設）の検討を実施した。

4.1 IPCC シンポジウム

4.1.1 開催状況

令和6年3月4日（月）に虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンラインにて、経済産業省、文部科学省、気象庁主催、環境省、農林水産省、林野庁、国土交通省共催で、IPCC シンポジウム「IPCC 第7次評価サイクル（AR7）始動！」と題するシンポジウムを開催した。

シンポジウムの冒頭で、Joy Jacqueline Pereira WGⅢ共同議長から「AR7 の方向性について」と題して基調講演があり、日本政府や研究機関に対する、AR7 に向けた期待が述べられた。

続いて榎剛史 TFI 共同議長からは「短寿命気候強制因子排出量計算に関する方法論報告書について」と題して、TFI の重要性について解説がなされた。

続いて Şiir Kılıç WGⅢ副議長からは「気候変動に対処するための都市システムに関する主な調査結果と今後の方向性」と題して、都市特別報告書に関する解説（気候変動と都市の関係性、タイムラインなど）について説明があった。

後半のパネルディスカッションでは、モデレータを東京大学の杉山昌広教授（WG3 執筆者）が務め、パネリストは基調講演の3名の IPCC ビューローに加えて、各 WG から東京大学 渡部雅浩教授（WG1 執筆者）、気象庁 石井雅男主任研究官（WG1 執筆者）RITE 秋元圭吾グループリーダー（WG3 執筆者）が登壇され、「AR7 が形作る気候変動の未来（How AR7 can shape our climate future）」というテーマに沿って議論が行われた。（具体的には、残りのカーボンバジェットとCDR含む気候ソリューションの活用（Remaining carbon budget and leveraging climate solutions, including CDR）

基調講演や AR7 に向けた意見や疑問など、オンライン含む参加者の方々からの意見や質問を Sli.do（Q&A と投票のプラットフォーム）を通して受け付け、多様な視点から活発な議論が行われた。

今回は昨年に引き続きハイブリッド形式での開催を行った結果、企業、法人研究機関、省庁、自治体、業界団体、大学等から 190 名（会場 36 名、オンライン 154 名）の参加をいただき、参加者からのアンケート結果も「大変参考になった」、「参考になった」という回答が 97%を占め、大変有意義なシンポジウムとなった。

4.1.2 シンポジウムの概要

日 時：2024 年 3 月 4 日（月） 10:00－12:30

場 所：虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンライン

（東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー5 階）

主 催：経済産業省、文部科学省、気象庁

共 催：環境省、農林水産省、林野庁、国土交通省

後 援：地球ウォッチャーズ－気象友の会－

参加者数：190 名（会場 36 名、オンライン 154 名）

受付開始	9：30	
開会・主催者挨拶	10：00	小林 出（経済産業省 大臣官房審議官（環境問題担当））
基調講演	10：05	Joy Jacqueline Pereira（WGⅢ 共同議長） 榎 剛史（TFI 共同議長） Şiir Kılkış（WGⅢ 副議長） ※オンライン
基調講演に対する質疑応答	10：35	
休憩	10：45	
パネルディスカッション	10：55	モデレータ：杉山 昌広（東京大学 東京大学未来ビジョン研究センター 教授） パネリスト：Joy Jacqueline Pereira（WGⅢ 共同議長） 榎 剛史（TFI 共同議長） 渡部 雅浩（WGⅠ 執筆者 東京大学 大気海洋研究所 気候システム研究系気候変動現象研究部門 教授） 石井 雅男（WGⅠ 執筆者 気象庁気象研究所 気候・環境研究部 主任研究官） 秋元 圭吾（WGⅢ 執筆者 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
閉会挨拶	12：30	林 孝浩（文部科学省 大臣官房審議官（研究開発局担当））

4.1.3 講演発表・パネルディスカッションの概要

シンポジウムにおける講演発表、及びパネルディスカッションの結果概要を以下に記す。

■ 基調講演 2：「短寿命気候強制因子排出量計算に関する方法論報告書について」

Joy Jacqueline Pereira (WGⅢ共同議長)

今回の基調講演では、IPCC 第 7 次評価報告書をまとめるに際して、次の内容にて講演された。IPCC の役割、政策に対する中立性、IPCC の歴史、報告書の構成と作成プロセス、報告書の種類とその数、執筆に関わる研究者数、IPCC-60（総会）の動向、タイムライン等の説明がなされた。

その後、「国連が掲げる持続可能な開発のゴール」との内容で、「SDGs」との関係性やシナジーの追求、一方でのトレードオフの発生に言及頂いた。

■ 基調講演 2：「短寿命気候強制因子排出量計算に関する方法論報告書について」

榎 剛史 (TFI 共同議長)

本基調講演では IPCC 第 7 次評価報告書に含まれる内容について、TFI の視点から講演が進められた。まず、TFI のこれまでの IPCC への貢献としての「ガイドライン」や「支援ツール」、「TFI 手法報告書」、執筆者の選定プロセス等についての紹介がなされた。

次に、専門的な内容として、短寿命気候変動要因、SLCF インベントリ、AR6 の際の準備、技術分析の内容の紹介がなされた。

最後に、2/26-28 にオーストラリアのブリスベンで開催されたスコーピングミーティングの内容を直近の動向として紹介された。

■ 基調講演 3：「気候変動に対処するための都市システムに関する主な調査結果と今後の方向性」

Şiir Kılış (WGⅢ副議長) ※オンライン

本基調講演では、AR7 にて作成することが決まっている「都市特別報告書」に関して、その主旨に関してご説明があった。

さらに都市システムの「コンパクトな形態」「交通・エネルギー・建物・土地利用・行動の関連性」「電化」「再生可能エネルギーの適用増加」「木材の環境優位性」「緑地を備えた都市計画」に関してもご説明頂いた。

最後に、「都市と気候変動に関するクロスワーキング グループ ボックスから AR7 まで」との内容で AR7 における都市に関するシナリオや展望をご説明頂いた。

■ パネルディスカッション：

テーマ『AR 7 が形作る気候変動の未来 (How AR7 can shape our climate future)』

議論内容「残りのカーボンバジェットと CDR 含む気候ソリューションの活用

(Remaining carbon budget and leveraging climate solutions, including CDR)」

モデレータ：杉山 昌広（東京大学未来ビジョン研究センター 教授）

パネリスト：Joy Jacqueline Pereira WGⅢ共同議長

榎 剛史 TFI 共同議長
渡部 雅浩 WG I 執筆者 東京大学大気海洋研究所気候システム研究系
気候変動現象研究部門 教授
石井 雅男 WG I 執筆者 気象庁気象研究所
気候・環境研究部主任研究官
秋元 圭吾 WGⅢ執筆者 公益財団法人地球環境産業技術研究機構
システム研究グループリーダー・主席研究員

○ 杉山教授

パネルディスカッションでの議論に先立ち、先ずモデレータの杉山教授から、「Climate “solutions” across scales?」と題して、現在の問題意識などについて講演された。主な内容は次の通り。人為的な気候変動は明白であること、気候変動の影響は温暖化が進むごとに増大すること、社会には温室効果ガスの排出を削減するための複数の選択肢があること、IPCC と社会はますます "解決策" に目を向けていること、最後に、IPCC の次のステップはどうあるべきか? について問題提起をされ、パネルディスカッションのテーマを明確にされた。

○ 渡部教授

「Some thoughts on WGI AR7」 と題して、第 7 次評価報告書に対する次の内容に関して見解を述べられた。WG1 がメディアに取り上げられていること、今後 IPCC 内のシナリオ更新、2023 年が最も暑い年であったこと、地域スケールでの極端気象の短期予測に世界の研究者が取り組んでいること、ティッピングの問題に関して、過去の気象変動パターンの解析等、に関して見解（主に今後の課題）を述べられた。

○ 石井主任研究官

「Global Carbon and Other Biogeochemical Cycles and Feedbacks」 と題して、次の内容に関して見解を述べられた。気象庁が過去 40 年間、東経 137 度線に沿って CO₂ を繰り返し測定した結果、海洋酸性化は、大気からの CO₂ の取り込みによって世界的に引き起こされていること、海洋における人為的な CO₂ の大気-海洋界面への取り込みと海洋内部への貯留は、国際的な共同研究によって評価されていること、海洋 CO₂ 測定のバリューチェーン（PDCA サイクル）、人間活動は気候システムのすべての主要な構成要素に数十年から数百年単位で影響を与えること等、に関して見解（主に現状）を述べられた。

○ 秋元主席研究員

「A Scope of IPCC AR7 –Evaluating broad technologies and options with technology-neutral assessment manners-」 と題して、第 7 次評価報告書に対する次の内容に関して見解を述べられた。世界の CO₂ 排出量の展望と気温の動向、CO₂ 累積排出量と気温

上昇の関係、ネットゼロエミッションに向けた国内エネルギーの展望、世界の CDR 導入状況と IPCC シナリオの関係、気温上昇が 1.5℃以下となる CO2 排出削減シナリオの分類等、に関して見解を通して、AR7 の報告書をまとめるに際しての難しさ・課題感を述べられた。

○ パネルディスカッション

東京大学の杉山昌広教授をモデレータとして、3名の基調講演者に加え、AR6報告書の執筆に関わられた各WGの日本の研究者の方々をパネリストにむかえ、「AR7が形作る気候変動の未来（How AR7 can shape our climate future）」というテーマにパネルディスカッションを行なった。議論の対象として、残りのカーボンバジェットとCDR含む気候ソリューションの活用（Remaining carbon budget and leveraging climate solutions, including CDR）に焦点があてられた。具体的なディスカッションの内容は次の通り。

- ・気候感度推定の重要性の解説（渡部教授）
- ・気候変動予測の不確実性の解説、CDRの持つ影響（石井主任研究官）
- ・CDRの持つ社会的制約と適用に向けた課題（秋元主席研究員）
- ・温暖化対策に関して「削減量の算定方法」の持つ役割と「SLCF」の影響（榎TFI共同議長）
- ・各WGの連携に関する展望、AR6の反省を踏まえて（Pereira WGⅢ共同議長）
- ・日本特有の文脈を踏まえてIPCCが政策に貢献するための課題（秋元主席研究員）
- ・途上国等の査読を受けていない報告書をAR7に活用するための課題（Pereira WGⅢ共同議長）
- ・災害対応、インフラ管理等の政策にAR7が貢献するための課題（渡部教授）
- ・WG1の取組みは時間がかかるがAR7のタイムラインに乗せるための課題（渡部教授）
- ・気候に関する科学的知見の有効活用に向けた課題（石井主任研究官）
- ・CDRに取り組む民間企業とAR7のCO2削減量の算定方法の違い（榎TFI共同議長）

4.2 WG1・WG3 および都市特別報告書に関係のあるビューローと日本人研究者の非公式意見交換会（以下、意見交換会）

4.2.1 開催状況

今回の意見交換会は、気候変動全般、WG3、都市特別報告書等について、若手研究者の IPCC の執筆への理解促進を目的に開催された。意見交換会の冒頭で、IPCC ビューローより AR7 の執筆に際し期待される人材などが述べられた。

途中、Robert Vautard WG1 共同議長よりオンラインで会場へコメントがあり、イレギュラーではあったが日本の研究者を激励頂けた。

その後、5 つの Gr に分かれて、IPCC ビューローや AR6 執筆者との Gr ディスカッションが 2 回（各 30 分）、参加者を入れ替え行われた。

4.2.2 意見交換会の概要

日 時：2024 年 3 月 4 日（月）14:00～17:30

場 所：場 所：虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンライン
（東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー5 階）

主 催：経済産業省、文部科学省、気象庁

共 催：環境省、農林水産省、林野庁、国土交通省

参加者数：43 名（主催、共催の省庁関係者、RITE は含めず）

開会挨拶	14：00～14：05	経済産業省（木村交渉官）
基調講演	14：05～14：35	各 WG の求めている人材/今後のスケジュール ・ Joy Jacqueline Pereira WGⅢ 共同議長 ・ 榎 剛史 TFI 共同議長 ・ Şiir KILKIŞ WGⅢ 副議長（都市関連特別報告書） ※オンライン
座席移動	14：35～14：40	
意見交換会	14：40～15：45	・ IPCC ビューロー（WG3 共同議長、TFI 共同議長（オンライン：WG1 共同議長、WG3 副議長）と日本人執筆者が円卓を囲い、IPCC についてビューローと議論 ・ 前半 30 分、座席移動 5 分、後半 30 分でグループを変更して議論 Group1. Joy Jacqueline Pereira WGⅢ 共同議長 Group2. 榎 剛史 TFI 共同議長 Group3. Şiir Kilkış WGⅢ 副議長（オンライン） Group4. Robert Vautard WG1 共同議長（オンライン） / 渡部 雅浩 東京大学 教授 / 石井 雅男 気象庁 主任研究官 Group5. 杉山 昌広 東京大学 教授
フリーディスカッション及びポスターセッション	15：45～17：45	・ ラウンドテーブルで話した内容をベースにフリーディスカッションを実施 ・ 日本の研究者に任意でポスターの作成を依頼。 ・ 作成したポスターをもとに日本の研究者が自分の研究内容や関心事項について説明
閉会挨拶	17：45～17：50	気象庁（松田課長補佐）

第5章 AR7に向けた検討および執筆者選定に向けた手続きの補助

昨年度に引き続き、AR6 WG3 報告書の日本人執筆者や有識者の先生方に対して、AR7 へ向けてのご意見や、ご自身が第7次評価サイクル（AR7）へ貢献する意向があるか、また、AR7 で新規に執筆者として推薦をする若手研究者について、個別にヒアリングを行った。

5.1 AR6 WG3 の日本人執筆者および有識者へのヒアリング

IPCC では、2023 年 7 月に AR7 ビューロー選挙が行われて、その後、AR7 評価サイクルが開始して、今後、日本政府として報告書のスコーピング会合参加者や執筆者の推薦を行うにあたり、AR6 WG3 の日本人執筆者や有識者に対して、ご自身の AR7 への期待や IPCC への貢献の仕方、また、新たに執筆者に推薦をいただける若手研究者などに関するヒアリングを行った。

(1) ヒアリング方法

原則として、以下の要領でヒアリングを行った。

- ・それぞれの AR6 WG3 執筆者、有識者の方々に対して個別のヒアリングとする。
- ・可能な限り、対面形式で行う。（場合によってはオンラインも併用する）

(2) ヒアリング項目

AR6 へのご尽力に謝意を表した後、AR7 への期待や、どのような立場で貢献を頂けるか等について広く自由な意見を伺った。具体的に、下記の項目についてヒアリングを行った。

① AR7 との関わり方について

（AR7 のそれぞれの報告書のスコーピングが決まれば、その時期にもヒアリングの機会を持つ予定であるが、現時点でのご意見を聞く。）

- ・引き続き、執筆者として貢献頂けるか？（CLA / LA / RE の何れか？）
- ・推薦いただける日本の研究者はいるか？（特に若手研究者）
- ・その他、AR7 報告書の執筆者の選考について意見があれば伺う。

②その他 AR7 に向けての自由意見を伺う。

(3) ヒアリング結果

昨年度、ヒアリングを行うことができなかった日本の AR6 WG3 執筆者 3 名、および、有識者 1 名に対してヒアリングを行った。

第6章 総会・関連会合に関する調査と報告

第1章 1.1 に記載の IPCC 第59回総会、第60回総会の対処方針等、適宜地球環境対策室から指示を受け、関連するテーマについて適切な資料、情報を収集、分析・整理、調査を行い、地球環境対策室が指示する期日までに報告した。

第59回総会関連では、地球環境対策室からの指示に従い第7次評価サイクルの IPCC 議長候補に関して WG3 幹事会委員に対しヒアリングを行った。また総会に先立ち第6次評価サイクルビューロー選挙時の情報を元に選挙の流れや校正、地域バランス等について調査を行った。第60回総会前には、各国に向けて AR7 サイクルの成果物やタイムラインについてのアンケートが行われ、提出された各国の意見の分析を行った。

6.1 IPCC ビューロー選挙に関する調査

6.1.1 第7次評価サイクル IPCC 議長候補に関する WG3 幹事会委員からの意見収集

令和5年7月に行われる IPCC 第59回総会の主要な議題でもあるビューロー選挙に関し、事前に立候補を表明されていた IPCC 議長候補について、WG3 幹事会委員5名に聞き取り調査を行った。

6.1.2 IPCC ビューロー及び TFI ビューロー選挙時の流れ及び、構成、地域バランスに関する調査

選挙の流れやポジションに対する地域バランスについて、前回の第6次評価サイクルビューロー選挙時（第42回 IPCC 総会（Dubrovnik））の情報を調査し、選挙の流れと候補者並びに選出者の動きや地域バランスについて資料及び一覧を作成した。

6.1.3 IPCC ビューロー及び TFI ビューロー選挙立候補者に関する調査

地球環境対策室の指示に従い、AR7 サイクルの IPCC ビューロー及び TFI ビューローに立候補されている候補者の情報について、IPCC の HP に掲載されている CV などを用い、「地域区分」、「先進国・途上国」、「性別」、「専門分野」、「肩書き」、「IPCC との関係や経験」について、各候補の情報について一覧を作成した。

第7章 AR6 WG3 報告書の翻訳

WG3 報告書に関しては、第6次評価報告書が2022年4月に公開されて以降、IPCCのアウトリーチ活動に資することを目的に、WG3 SPM（政策決定者向け要約）及び本編各章について翻訳を行ってきた。今年度はアウトリーチ活動の準備として、前年度までに翻訳を行っていなかった報告書本編の章等について経産省へ提案、相談の上、特に重要と判断された本編の4つの章および付属資料（Frequently Asked Questions（FAQs））を翻訳した。